



テーマ 「人」と「情報」が集まる社交場

inabe **NOWTO**

6th issue 2023.3

TAKE FREE



CREDIT

| 企画協力 | 取材・撮影にご協力くださった全ての皆さま /
 ヘアサロンイトウ (三重県理容生活衛生同業組合 理事) 伊藤誠 /
 株式会社 GOLD 取締役 日置祐人 /
 MARX 十一代目 もめん屋長兵衛 / 古木のある家 小高尚代
 | アートディレクション・デザイン | 浦田典秀 (鈴籠写真) / 山下佳苗 (granne design)
 | デザイン・テキスト | 山下佳苗 (granne design)
 | テキスト (p1-2/p9) | 荒木愛美 (GCI)
 | 撮影 | 浦田典秀 (鈴籠写真)
 | イラスト・制作アシスタント | 小寺貴也 (コデザイン)
 | 撮影アシスタント (表紙/p3-4) | 梅山淳也 / 鈴木悠真 / 松永紗朱花
 | eat 紡ぎ イラスト・テキスト | 川瀬知代
 | 印刷 | 共栄堂印刷
 | 発行 | いなべ市
 | 企画制作 | 一般社団法人グリーンクリエイティブいなべ (担当 荒木)

inabe NOWTO 6号 2023年3月発行

COVER MODEL

近藤匡 Kondo Tadashi / 大道芸人 わくわくブーブ
 大道芸人歴 14年。
 世界でも稀な最高難度のバランス芸を得意とし、プロとして全国各地で活動する。
 また、いなべ市にある廃校「中里小学校」をリノベーションした「あそべる廃校！
 ういこっちゃん。」を経営。地元ラジオ「いなべFM86.1」のパーソナリティーも務める。

あそべる廃校！ういこっちゃん。
 「廃校」をまるごと改造したあそび場&カフェ
 〒511-0502
 三重県いなべ市藤原町上相場 838
 9:00-16:00 (木曜・祝日は営業・年末年始休校)
 tel: 070-2795-7446



interview 01

遠い親戚よりも近い存在
「親しみある場所」でありたい



キーワードは 人 / 集 / 場所 文化 / 交流

今号では、「人」と「情報」が集まる社交場をテーマに、地域に根ざす新たなカルチャーを生み出すべく活動する人たちを取り上げる。さまざまな職人の技術や想い、この地域ならではの伝統や文化を次世代へ継承するべく未来に向けた場所づくりをはじめている。共通の想いや目的、自分の暮らしがさらに彩られていくために「つながる場」が生まれ、このまちの一つの価値として高まっている昨今。時代と共に変容しながらも、さまざまな人たちがこれまでも、これからもつながり、想いをかたちにしている。

「理髪店」はコミュニケーションの場

江戸時代にあった理髪店は、男性の髪を切り整えるだけでなく、お客同士のコミュニティースペースとしても機能していたそう。待っている間、囲碁や将棋を楽しみ世間話で盛り上がり、気のおけない空間で楽しく過ごしていた。これはまさにサロン文化、社交的集会である。そこから少し時代が進むと、理髪店と銭湯が大人の社交場になり、「人」と「情報」が集まる場所になっていったといわれている。

「地域の人たちは昔、お通夜の日に髪の毛を整えに来ていた」
ヘアサロンイトウは、冠婚葬祭に関することや地域の人たちの元気度合いなど、まちのさまざまな情報が行き交う場所になっていた。また、散髪中リラクースできるからなのか、心が解放され、ついついプライベートな話に花が咲くのも、この業界の面白さともいえる。
「多くて月1回、2ヶ月に1回は髪を整えに来てくれる。3歳から髪を切っていて、今は結婚して子どもがおる。兄ちゃんのようにずっと親しみを持って話してくれるのが何より嬉しい」
現在、市内各所には老舗から新店合わせ数十店舗もの理容室がある。昔流行ったドラマやメディアの影響もあり、美容師は若くて華やか、理容師は年配で堅いイメージが現代でも残る。
「若い人たちがやっている理容室も今風でかっこいい！みんなのイメージを払拭させたいなあ」
「個性優先」の時代。理容師もお客に対して、より似合うスタイルを提案し、お客もそれを自由に求める時代になった。極上のフワフワ泡で顔剃りからはじまる散髪時間。ぜひ、癒されに行ってみて欲しい。

伊藤 誠 Ito Makoto

ヘアサロンイトウ2代目。
東京で10年修行の後、父と共に理容師として店に立つ。

HAIR SALON ITO
〒511-0504
三重県いなべ市藤原町川合1484-1
8:00-19:00(月・火曜定休)
tel:0594-46-2762



interview 02

自分が楽しくないと魅力は伝わらない

「幸福感」。きっと、人それぞれにあるだろう。旅先で見たことのない文化に触れること、高級なレストランでの食事、仕事終わりに家で飲むビールの一口目。好奇心から行動することで得られる体験は感じ方も人それぞれ。実は今、幸福感や好奇心をくすぐるようなプロジェクトが、いなべ市で着々と進んでいる。

北勢町川原「東林寺」境内にある「川原の白滝」。その滝の側に、理容室と宿泊施設「GOLDEN BACK barber & villa」が誕生する。夏は涼しく、秋には赤く染まる紅葉が美しい、四季の彩りと清々しい空気を感じられる場所だ。

「こんなところで理容室と宿泊できるん？」知っている人は思うかもしれない。

「こんなところだからです」

そう話すのは、いなべ市出身・在住の理容師・日置祐人さん。現在、名古屋で4店舗を展開する理容室、株式会社「G」の取締役でもある。アパレルやアートなど、店舗ごとに特徴を出す空間づくりや市内での出張理容室など、さまざまなことを企画し、文化を伝えながら表現の場を広げている。

物腰が柔らかく巧みな技を持つ、いなべが大好きな人だ。そんな日置さんと株式会社「G」の今回の計画が整髪と宿泊を両方楽しめるリゾートバーバー。人目を気にせず過ごせる、贅沢な空間となる。

「社内で定期的に妄想会議をしているんです。そこで、整髪してそのまま泊まれる場所ってええなあ。という話

になり、よし、作ろう！ということとで始まりました」

いなべに住む人たちはとても親切で自然も豊か。癒しを求めに来ていただくのはもちろん、これからの担う子どもたちや若い世代の人たちにも、いなべの雰囲気と、どんなことができるのか感じてほしい。そう思ったことから、地元で店舗を構える決意をした。

昔は、覗きやイベントがある前には必ず理容室へ行くのが習慣だった。今でもその文化は残っており「整え」が必要だと感じた時に、日置さんの元へ足を運ぶ人が多いそう。

「リセットや方向転換したいとか、ターニングポイントになる時に頼ってもらえるのが嬉しいんです。理容室ならではの顔剃りも、月1回の垢落としのような感じで、いろいろ落としてまた仕事や別の場所へ向かう。その姿を見られるのも楽しいですね」

髪だけではないと、心までも整う。落ち込んでいたけれど数時間後には軽やかになっていく。そんな、気持ちが変わるような、自分自身を取り戻せる環境をいなべでつくりたいそう。整髪はもちろん、ご飯を食べ、眠る。ただただのんびりしてほしい。できればスマホやパソコンなど、デジタルから離れ、体が喜ぶことを。例えば、思うように行かなくて疲れて、コンビニで甘いものばかり食べて、美味しいですけどね(笑)。でも、ストレスで食べるのではなく、デトックスして、心満たされて欲しいです。ご褒美って人それぞれ違うと思うけれ

ど、頭からつま先まで、心身ともに整えることも一つのご褒美だと思う。その提案ができたらいなと思います」

宿泊施設では、飲食店や農家の方と連携を取り、地産地消できる仕組みをつくる予定だ。

「理容室だけその可能性をどこまで引き出せるかが大事だと思います。そのために周囲の方の協力も必要。料理人や職人など、プロフェッショナルな方が多いまちなので、できれば全ていなべで循環させて一緒に盛り上げたいですね」

まずは自分たちのやっていることに責任を持ち、全力で楽しみたいと、相手にも伝わりたくない。特に子どもたちには、働く場所がないから外に出るのではなく、大人が動く姿を見て、いなべで過ごしたい、働きたいと思ってもらえたら嬉しい。その時に仕事の選択肢が今よりたくさんあった方がいいと思う。

「そのためにはいろいろ整えないとです。まだまだ止まれないですね(笑)」

地元の人とのつながりを大切に、誰かにとって必要な、憩いの場所に、時代とともに理容室プラスαの文化が根づけば、いなべは更に活気あふれ、楽しくなるだろう。

働くこと、暮らすこと、過ごすこと。多方面からいなべを見据えている日置さん。過ごすための空間はまもなく完成だ。髪を整えたら滝を眺め、散歩する。あえて何もしないことが贅沢かもしれない。自然に任せて、ぜひ、あなたらしい滞在を。



日置 祐人 Hioki Yuto

いなべ市在住。株式会社 GOLD 取締役。洗練されたスタイルを活かし、市内のクリエイターとコラボレーションした整髪イベント「切って撮る」の開催や出張理容室など、店舗の他にはまらない形式でサロン文化をエンターテインメントに伝えている。イベントの売上はハタチ基金に寄付し、子どもたちの学びや自立に向けた支援を続けている。リゾートバーバーは2023年夏頃 OPEN 予定。

いなべでつくる、新しいスタンダード

株式会社 GOLD
日置祐人十一代目 もめん屋長兵衛
(めん長)

何年も続く、地域に根ざす場所を準備中のふたり
洋服と理容室、それぞれの切り口から生まれる
文化や社交、これからのための対話



対談場所 | 古木のある家

※1 OEM/Original Equipment Manufacturingの略。オリジナル製品の製造業者
※2 テーラー/tailor 仕立て屋。顧客の要望に応じ、紳士服や婦人服などを仕立て販売する事業者

— スーツと理容室の関係

日置 株式会社 GOLD で理容室をしています。今、名古屋に4店舗あって、そこで髪を切ったりしています。
めん長 僕は主に洋服づくりをしています。東京にあるセレクトショップの「三葉」(さんえい)、スーツやメンズ服製造、卸しの会社を経営しています。3年前にいなべに移住しました。会社は名古屋にあってしばらく通っていたのですが、コロナ禍でリモート対応が色々増えて。それで会社もいなべに移そうということ、引越しました。
日置 そうなんです。じゃあ僕と完全に逆ですね。

めん長 そうなんですか？
日置 はい、僕は大安町に住んでいますが、コロナ禍でリモート対応が色々増えて。それで会社もいなべに移そうということ、引越しました。

めん長 本当だ、逆ですね(笑)。
日置 めん長さんはすでにパーバースタイルですけど、いつ頃から理容室に通っているんですか？

めん長 いつかからだろう、多分10年以上通っていますね。理容室の雰囲気ですごく落ち着くんですよ。東京に住んでいたこともあったので、東京の店舗にずっと行って。名古屋に引越してから探していたんですけど、見つからなかったの、出張の度に髪を切っていたんです。

日置 すいません(笑)。
めん長 いえいえ(笑)。数年前は選択肢が少なかったんです。でも、それは今も同じかな。

日置 そうですね。少しずつ増えてきてはいるのですが、美容室がパーバースタイルでやっていることが多いので、理容室がフェードしているような、パリパリの店舗はまだ少ないかも

という想いがあった。いろいろな業種の方が集まってきてくれるんですよ。髪を切りながら雑談はもちろん、仕事の計画や夢など、お話を聞いて、それを別のお客様にお伝えしたり、紹介したり。そうやってつないでいく役目でもあると思うんです。
めん長 面白いですね。
日置 店舗もそれぞれに特性があるんです。スポーツバーを併設したり、ロックなアパレルショップが入っていたり。あとは気軽にイベント出店できるようなスペースを設けたり。アートを飾ってポップアップのイベントもしているんですけど、うちにはまだテラー(※)がないんですよ。
めん長 なるほど、なるほど。その親和性は高いと思います。
日置 はい。トータルコーディネートのこと、クラシックというのは、すごく可能性あるなあとと思っています。
めん長 準備はしておりますよ。
日置 おお、僕も準備しなきゃ(笑)。

文化を残し、つなげる

日置 今、北勢町川原で宿泊施設と理容室を混ぜたような店舗をつくっているんです。結構敷地が広くて、庭がうわーっと広がっていて。ポツンと宿泊施設とその裏に店舗がある感じ。そこでファッションショーを開催するのも面白そうだなと思いました。
めん長 うんうん、面白いと思う。周りりは川と木で囲まれている原っぱなので、めん長さんがつくったものと、僕らのつくったものでキャットウォークを設置するとか、それでフアッションでなんかいいな、と感じてもらえたら楽しいだろうな。
めん長 いいですね。僕も今、大安町石樽南でお店の準備をしているところ。洋服づくりをするのですが、メンズ寄りになってしまふかな。でも、女性も着られるようなユニセックスもつくっていきなす。あとはスーツ、やっぱり都会的なイメージがついてい

— スーツと理容室の関係

れないです。ね。
めん長 本当に少ないと思います。
日置 フェードって簡単ですが、昔からあった技術でもあるんです。トップとのバランスがまとまっていて、その中でグラデーションを綺麗に出す感じ。理容室はいかに削ぎ落とすでデザインを完成させるか、整えられるか。整髪に重きを置くので、そう考えると、スーツとの親和性も高いのかな、と感じます。
めん長 うんうん、それはすごく思います。今回の「made with」表紙撮影でも、髪が襟につくと美しくない、とか色々話しましたもんね。あと、僕自身、中学校くらいの時からほぼ刈り上げなんですよ。
日置 おーすごい！
めん長 刈り上げ以外の時期が少ないくらいずっと刈り上げです。昔から洋服が好きなので、髪が襟につくことどうしても違和感があった。今は自由な社会性もあるので、どんなかたちでもいいとは思いますが、基本的にスーツにはフェードまでは行かなくても、整髪をしている状態が僕は理想的。それが当たり前の世界に飛び込んで生きているので、どうしても気になってしまっていますね。
日置 面白いなと思います。髪型とスーツ、その親和性ってなかなか知らない人多いかもしれないですね。
めん長 ですね。でもサラリーマンとか、スーツをしっかりと着ている人って理容室に行く率が意外と高いんじゃないですか？
日置 確かに、多いです。ピシッとしたいとか、襟足の処理の仕方とか、理容室ならではのものがあるので、それを求めて来てくださる方に応えたい思いはすごくあります。

人が交わる場所

日置 僕の会社は「理容室は接客刑」がモットーなんです。人と人をつないで、新しい仕事が生まれたら嬉しいと思うんです。ただ、それも最近の話なんです。70年代ぐらいとか。僕たちのおじいちゃん世代は今もツイードのジャケットを着ているんですよ。前に、いなべでお父さまが軽トラに乗ってツイードジャケットを着て確定申告に来ている姿を見た時、すごく心に沁み込んでますよ。
日置 それは沁みる！
めん長 大事な時に着る、あれがやっぱり残っているというか、ひとつの文化でもあると思うんです。今日は大事なお日だと思つた時はジャケットを着ようとか。上下だとハードルが上がるので上着だけでも、とか。田舎だからこそ残せる文化はこれからもつくって行きたいです。田舎だからスーツはいいじゃないね、ではなく、スーツは一つのスイッチだと思ってもらいたいです。そこを大事にしたい。それは髪型も同じだと思えますよ。
日置 そうですね。
めん長 僕も毎日ピシツとした髪型をしているわけじゃないので(笑)。キメようって思つた時はキメるし、ネクタイを締めると気持ちも入るし。
日置 うんうん、そうですね。
めん長 気持ちが入ることをいなべでやりたいな。さっきお話ししたツイードは、少し粗野な素材なんです。本当はハンティングの時や、山遊びする時、あとは乗馬の時に着るもの。
日置 スポーツ寄りの感じですか？
めん長 そうですね。自然に近いところで着るべきものだと思います。僕自身ツイード素材が好きなので、洋服の役割もご提案できればいいなと思っています。それが一つのスタイルになっていたら嬉しいです。
日置 いいですね、それを淡々と続けられるといいですよ。もうそれが普通です、くらい。
めん長 抜ける訳でもなく、淡々とね。
日置 周りの人たちがずっと一緒にやっていきなすって思う。
めん長 根ざしていきなすね。
日置 まさき。目立たずすつとやってみなすな、それが一番面白いかもしれないです。
めん長 ですね。そして築き上げてきた文化をまた僕たちなりに継承できた方がいいですね。



interview 03

心が喜ぶ一張羅を



その日履いていたピカピカの靴がとても印象的だった。「何度も直して、磨いて20年ぐらいずっと履いています」年月を感じさせない美しい佇まいに惚れ惚れした。「もう、また長くなる(笑)」

そう話してくれたのはテラーの十一代目もめん屋長兵衛(めん長)さん。顧客の想いを汲み取り、一人ひとりの体型に合わせたオーダーメイドスーツを仕立てる人、そして話すとき時間を忘れるくらい、洋服を愛してやまない人だ。

代々続く三重県の呉服屋、十一代目でもあるめん長さんは、小さい頃から着物や洋服とともに過ごしてきた。それからファッション、ロック、イギリス文化に興味を持ち、洋服を学ぶためロンドンへ留学。そこでスーツの歴史に魅了されたそう。

「根本がすぐく気になる性格なので、追求していったら虜になりました」日本と外国のスーツに対する文化や考え方の違い、本質的な部分を知っていくうちにどんどん夢中に。帰国後はセレクトショップなどで販売、アパレルで製造を経て、今、また三重へ。いなべに拠点を置き、スーツをメインに洋服づくりをしている。そして自身の店舗オープンに向けて準備中でもある。

「スーツは本来、自由が効いて表現したい格好ができるもの。特にイギリス、イタリアでは仕事着としてもそうだが、パーティーや大事な時にはスーツやジャケットを装う。ドレスコードになることも数々。日本はまだ、仕事などで「着なくてはいけない」意識が高いので、義務ではなくもつと選び、楽しんでもらいたい」と言う。ネクタイ一つでも自分で選ぶことで内面性が表れ、知らなかった自分に出会えたり、好みに気づけたりする。それが魅力でもあるのだ。

「アメリカの大統領やイギリス、フランス首脳の前装時のネクタイは国のカラーや想いが表れているので面白いと思います。会う人に応じて色を変えているんですよ」

相手への敬意を洋服やアイテムで表現できるのもなんだか面白い。「スーツを作る工程のほとんどが手作業で、洋服づくりの中で一番手間がかかると思います。でも、その丁寧さこそ文化だと思えます。今はミシンもあり便利になったけれど、昔はみなさん裁縫されていたんですよ。すごいことをされている、本当に」

日本で裁縫できる方は少なくなり、若い世代がほとんどいない。国内でものづくりができなくなっているものだからこそ、性能やデザインへのこだわりは欠かせない。

「今考えているのは、一貫した洋服づくりができる環境をつくること。そして働きたい方たちの受け皿になること。仕事としてできれば、一つの文化形成になり、まちの色になっていくと思うんです。それを根ざしていけたらいいですね」

福祉関係の方と一緒にものづくりをしたり、洋服づくりに興味がある方

を受け入れたり「つくる」「文化をつなげる」環境を整える。先人が築いてきた丁寧さを、次へとつなげていきたい想いからの計画だ。

洋服づくりは、ファストファッションやオーダーメイドなど、いろいろな手法や考え方があふれている。勝ちな正解もない。けれど、時代の流れとともに傾向が変わる部分はあるだろう。手放す洋服も出てくるかもしれない。その中で、手元に残しておきたい、何か引つかるものこそ、大切に育んでほしいとめん長さんは言う。例えば好きな人からもらったTシャツや、初任給で買った洋服。値段やブランドは関係なく、「想い」を感じられるもの。壊れたら直して、縫ってまた育む。素材だけで見るとは、手入れをすれば磨れず、何度でも直せることを知ってもらいたい。

「直してもずっと手元に置いておきたい、何年先も残していけるその人ならではの「一張羅をつくり続けたい」。洋服は大事な人生に寄り添ってくれる、そして背中を押してくれるものだと思えます」

暮らしを豊かにするものが多いだろう。ある中、洋服もその一つだろう。洋服に目を向けることは、自分自身と向き合うことにもつながる。選ぶことで豊かさを感ぜられたら、装うことはもっと面白くなる気がする。

いなべのまちで文化を築き、残す。新たな息吹を注いだめん長さんの心意気と果てしない可能性に、改めて惚れ惚れした。

十一代目もめん屋長兵衛 Momenyachobei

いなべ市在住。呉服屋の十一代目。先代がスーツの世界へ進み、そこからファッションについて学ばせられた。在英中に仕立ての技術を習得。英国人テラーのもとで修行をし、帰国後、アパレルなどの経験を経て自身ブランド MARX を立ち上げる。

「また来たい」と思う場所に

忘れられない思い出として、宿泊客の人生に色濃く残してもらえような体験を提供したい。そう話す小高さんは、古民家を改修したゲストハウス「古木のある家」を営み、国内外から旅人を受け入れる。海外からの来訪者に対して、いなべの歴史や文化、昔ながらの暮らしの魅力を伝えるため立ち上がったグループ「VIGIN(※)」にも参加。宿泊だけではなく、季節毎魅力ある名所へアテンドするなど、人と人をつなぎ、訪れた方の心に残る場所づくりを目指し、活動している。

※VIGIN/Volunteer(ボランティア)・Interpreter(通訳者)・Group(グループ)・Inabe(いなべ)の頭文字を取り上げた。



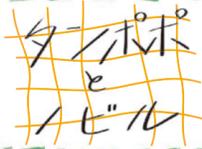
古民家の暮らしを体験
「古木のある家」

〒511-0432
三重県いなべ市北勢町東村411
チェックイン:15:00~
料金:1名につき6,200円~
※シーズンにより料金変更あり
tel:080-5317-8400

いなべに泊まる



vol.7



今回の先生



まっごさん

いなべ市員弁町の里山近くで一家を支えるパワフルお母さん 身近にある野草もまっごさんの手でごちそうに！ 好物/柿

川瀬 知代

イラストレーター/料理研究家 アトリエショップ「YUY」(北勢町員弁)にていなべ菓子「ののか」をプロデュース 製作しています

「これがあたりまえ」は人それぞれ。その、あたりまえエピソードをお聞きするのは面白いです。今回は、いなべ市員弁町の里山の近くで生活をされている、まっごさんに「春の野草」についてお聞きしました。そして、まっごさんご家族のあたりまえの暮らし方が、今の時代、とても大切なことを多く含んでいるように思うのでご紹介します。

野草の話に戻りますと、食べ方としては、アクが強いので茹でておひたしか、天ぷらにするのが多く、そうすることでアクの強さも風味として美味しくいただけるのだそうです。野草に限らず、その時期のものを、ご家族が採って来て、まっごさんが下処理してお料理され、家族みんなですぐに食べるのだそうです。家族をひとつの輪にさせるお母さんの存在力は計り知れません。旬の美味しいものを囲んで家族みんなで食べられる幸せ、素晴らしいなと思います。



取材時は1月末という時期外れにも関わらず、自生するフキノトウ、ユキノシタ、ワサビ、セリ、ヨモギ、ノビルを探って来てくださり、以前作っておいたという美味しい山椒の佃煮を持って来てくださいました。野草たちはいずれも、自宅の敷地内で採れたものだというので驚きます。野草について、あれこれお聞きしようとした矢先「こんななんなん知ってる。でえ。しょうもなあとバツサリ。時期になると、わざわざ山や川に遠出して採るようなイメージの山菜たちも、まっごさん宅では身近で「あたりまえ」な野菜のひとつなのです。野菜のひよこなのです。山菜だけではなく、性や食べ方、鹿、うさぎ、鶏、牛蛙などの解体、蜂の幼虫を食べるといって、薪割りや、その時に発見されるテッポウムシをバター醤油で炒めて食べるの美味しいのだとか。など自然と共に暮らす、あたりまえエピソードは尽きなくて私にとっても衝撃的でした！「そんなもんばか食べるわけやうで」と笑っておられました。が「育てられたものより自然に生えたものが良いし、売っていないもの、その時期のもの」がまっごさんの基準なのです。楽しさが美味しさであり、常に楽しんでチャレンジする気持ちを大切にされています。そして、自然のあたりまえをたくさん知っておられるからこそ本当に美味しいものや大切なものがなんなのか判断できるのだと思います。

(注意) 山菜や野菜を有毒な植物と間違えて中毒を起す事例が数多くあります。採取の際は十分に確認し、知らないものは食べないようにしてください。

野草の話に戻りますと、食べ方としては、アクが強いので茹でておひたしか、天ぷらにするのが多く、そうすることでアクの強さも風味として美味しくいただけるのだそうです。野草に限らず、その時期のものを、ご家族が採って来て、まっごさんが下処理してお料理され、家族みんなですぐに食べるのだそうです。家族をひとつの輪にさせるお母さんの存在力は計り知れません。旬の美味しいものを囲んで家族みんなで食べられる幸せ、素晴らしいなと思います。

こと 団体 店舗 人 もの

inabe NOWTO

掲載募集

いなべ市の「今」をみつめ・考える、まちづくり情報誌「inabe NOWTO」では、掲載させていただける市内店舗、活動団体、事業者、人、もの、ことなどを募集しています。以下要項を必ずご確認のうえ、興味ある方は、参画いただけると嬉しく思います。

募集要項

対象者
いなべ市内在住の方、いなべ市を拠点に活動している方、もしくは、今後いなべ市を拠点に活動される方

掲載のタイミング
掲載時期等は当方で決定いたします。ご了承ください。

掲載費用、掲載方法等
費用は基本「無料」となりますが、プロモーションや広告・宣伝等、掲載内容によっては有料となります。また、inabe NOWTOの世界観に応じたデザインを当方にて制作させていただいての掲載となりますので、ご了承ください。

媒体概要
タブロイド版、12Pカラー、各号5,000部/年2回発行
設置場所: いなべ市関連施設、市内外関連店舗など

ご相談・ご確認は、グリーンクリエイティブいなべ事務局(担当 荒木)まで、お問い合わせください。

応募先

メール info@inabe-gci.jp
郵送または持ち込み 〒511-0428 いなべ市北勢町阿下善31番地 いなべ市役所2階
グリーンクリエイティブいなべ事務局
※持ち込みの場合の受付時間:【平日】9:00-17:00
お問い合わせ (一社)グリーンクリエイティブいなべ tel:0594-72-7705

inabe NOWTO 5号掲載記事

ガタンゴトン 揺らぐ身体 奏でる音 移ろう景色 到着駅まで五感をゆだねて

三岐鉄道

三岐鉄道 三岐線 / 北勢線
数少なくなった車扱貨物列車が走る全国的にも珍しい路線の三岐線と、現在、全国で3路線しか残っていないナローゲージ(※)の北勢線。狭い路線幅で低速走行のため、小さな車体ならではの乗り心地や自然豊かな風景を楽しむことができます。おすすめの撮影スポットもたくさん。
※ナローゲージ/鉄道の路線幅(ゲージ)が国際標準軌の1,435mmよりも狭い762mmの路線

自転車持ち込み可能区間(無料)

【平日】 三岐線「三里駅」～「西藤原駅」間
【土・日・祝】三岐線「大矢知駅」～「西藤原駅」間
下記の期間・時間帯も、三岐線「大矢知駅」～「西藤原駅」間で持ち込み可能
春休み(3/26～4/4) / 夏休み(7/21～8/31) / 冬休み(12/25～1/7) 【平日】9:00～16:00
「北勢線」全線には自転車をお持ち込み出来ません。